



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月28日

上場取引所 東

上場会社名 フジッコ株式会社

コード番号 2908 URL <http://www.fujiicco.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 福井 正一

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役経営管理本部長

(氏名) 奥平 武則

TEL 078-303-5921

四半期報告書提出予定日 平成25年11月7日

配当支払開始予定日

平成25年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	26,595	4.4	1,439	△10.2	1,562	△9.6	684	△29.3
25年3月期第2四半期	25,465	△1.4	1,603	4.2	1,727	4.9	968	2.2

(注)包括利益 26年3月期第2四半期 621百万円 (△34.1%) 25年3月期第2四半期 944百万円 (△8.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	21.36	—
25年3月期第2四半期	30.23	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
26年3月期第2四半期	65,846		54,541		82.8
25年3月期	69,559		54,402		78.2

(参考)自己資本 26年3月期第2四半期 54,541百万円 25年3月期 54,402百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
26年3月期	—	16.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	16.00	32.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年 3月期の連結業績予想(平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	55,500	3.0	3,900	6.8	4,200	5.9	2,500	8.5	78.08

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	34,991,521 株	25年3月期	34,991,521 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	2,973,636 株	25年3月期	2,971,338 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	32,019,132 株	25年3月期2Q	32,023,296 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
3. 補足情報	12
(1) 販売の状況	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府が推進する成長戦略のもとで、緩やかな回復の動きが見られました。

食品業界におきましては、女性の社会進出、働く高齢者や単身世帯の増加を背景に、製造・卸・小売業のそれぞれにおいて、簡便性や個食に着目した商品分野への取り組みが進みました。

このような環境の中、当グループにおきましては、酸味が少なく食感や機能性で差別化された「カスピ海ヨーグルト」の拡大とおかず分野の発展に重きを置き、製品カテゴリー毎に必要な取り組みを進めました。製品価値向上に向けた研究活動では、強い粘りが特徴である「カスピ海ヨーグルト」の腸内細菌に対する影響について検証しました。その結果、「カスピ海ヨーグルト」を摂取することによって、各個人が元々持っているビフィズス菌(善玉菌)の割合が大きく増加することが分かりました。また、粘り成分であるEPS(Exopolysaccharide、菌体外多糖)は、この作用を促進していると考えられました。

売上高は、豆製品は厳しい状況となりましたが、昆布製品、そう菜製品、デザート製品、ヨーグルト製品が伸長しましたことから、265億95百万円(前年同四半期比4.4%増)となりました。

利益面では、販売費の増加等により、営業利益は14億39百万円(前年同四半期比10.2%減)、経常利益は15億62百万円(前年同四半期比9.6%減)となりました。四半期純利益は、特別損失として役員退職慰労金等の計上があり、6億84百万円(前年同四半期比29.3%減)となりました。

製品分類別の販売状況は、次のとおりであります。

昆布製品は、主力の「ふじっ子煮」が一部商品への「新・香味炊き製法」の採用、4月から5月にかけてのTVCM実施により、売上高を伸ばしました。新商品としては、8月より、「わさび昆布」を発売しました。塩こんぶは、「お手軽塩こんぶ」が好調に推移しました。

そう菜製品は、包装惣菜、日配惣菜ともに売上高が拡大しました。「おかず畑」シリーズは、ブランド浸透と更なる売上高拡大を目指し、8月中旬から首都圏、9月中旬から近畿圏でTVCMを開始しました。新商品としては、小容量商品のラインアップ強化を目的に、「きんぴらごぼうミニ」「ひじき煮ミニ」を発売しました。また、日配惣菜と包装惣菜の開発シナジーにより、日配惣菜の売れ筋商品である「ごった煮」を「秋の根菜彩り煮(期間限定)」として包装惣菜化しました。洋風惣菜は、アジア初使用となる加熱調理殺菌システムを用いて、素材の美味しさを逃さず、傷めず、レンジで簡単調理できる「ベスタデリ」シリーズの開発を進め、首都圏での販売拡大と近畿圏でのテスト販売に着手しました。

豆製品は、煮豆が苦戦を強いられました。「おまめさん」は、品質とパッケージデザインを見直し、9月下旬より、順次切り替えを始めました。水煮は、店頭でのコーナー化を推進しました。

デザート製品は、「フルーツセラピー」が既存商品の取り扱い増加と新商品「ベリー&アップル(期間限定)」の売上寄与により、売上高を伸ばしました。また、惣菜メーカーとしての強みを活かし、野菜の原料にこだわり、素材のおいしさが実感できるデザートとして、「かぼちゃプリン」「さつまいもプリン」を新発売しました。

ヨーグルト製品は、量販店チャネルの「カスピ海ヨーグルトプレーン400g」が、札幌・福岡・大宮でのカスピ海ヨーグルトフォーラム開催をきっかけに取り扱いが増えたこと等により、売上高を伸ばしました。また、北海道が健康食品に道独自の表示を認める北海道食品機能性表示制度を開始し、「カスピ海ヨーグルトプレーン400g」は同制度初の認定商品となりました。通信販売チャネルのサプリメント商品「善玉菌のチカラ」は、第1四半期に続き、好調に推移しました。家庭での手作り需要に対しては、簡単に失敗なくヨーグルトが作れ、デザイン性にもこだわったヨーグルトメーカーとして、「カスピくん」を新発売しました。

その他製品は、健康素材商品は苦戦しましたが、「朝のたべるスープ」「麻婆豆腐の素」が伸ばしました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ37億13百万円減少し、658億46百万円となりました。これは主に北海道工場と鳴尾新工場棟の生産設備に係る支払や納税等により、現金及び預金が減少したことによるものです。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて27億69百万円減少し、94億21百万円となりました。これは主に北海道工場と鳴尾新工場棟の生産設備に係る未払金の減少によるものです。固定負債は、前連結会計年度末と比べて10億82百万円減少し、18億82百万円となりました。これは主に役員退職慰労引当金と退職金制度改定による退職給付引当金の取崩しによるものです。

純資産の部は、純資産合計は前連結会計年度末に比べ1億39百万円増加し、545億41百万円となりました。

これらの結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の78.2%から82.8%となりました。

(キャッシュ・フローについて)

当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ10億38百万円減少し、119億30百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益を10億37百万円、減価償却費を10億3百万円計上する一方、法人税等の支払等があり、7億65百万円の収入(前年同四半期は15億41百万円の収入)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻しがあった一方で、有形固定資産の取得等があり、17億5百万円の支出(前年同四半期は15億円の支出)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の増加、長期借入金の返済、配当金の支払等により、98百万円の支出（前年同四半期は14億11百万円の収入）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当グループを取り巻く事業環境は、依然として厳しい状況が続いておりますが、当期の連結業績は概ね当初（平成25年3月期決算発表時）の予想どおり推移すると見込んでおります。

2. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,369	12,430
受取手形及び売掛金	8,771	8,240
商品及び製品	683	704
仕掛品	458	487
原材料及び貯蔵品	5,743	5,356
繰延税金資産	405	554
その他	238	265
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	31,668	28,036
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	31,931	31,959
減価償却累計額	△20,044	△20,432
建物及び構築物(純額)	11,887	11,527
機械装置及び運搬具	20,685	22,464
減価償却累計額	△16,960	△16,892
機械装置及び運搬具(純額)	3,724	5,571
工具、器具及び備品	1,815	1,784
減価償却累計額	△1,486	△1,472
工具、器具及び備品(純額)	329	311
土地	13,504	13,504
建設仮勘定	1,675	105
有形固定資産合計	31,121	31,020
無形固定資産		
ソフトウェア	372	278
その他	134	146
無形固定資産合計	506	424
投資その他の資産		
投資有価証券	4,928	5,176
繰延税金資産	459	69
その他	923	1,167
貸倒引当金	△48	△48
投資その他の資産合計	6,262	6,363
固定資産合計	37,890	37,809
資産合計	69,559	65,846

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,814	4,065
短期借入金	732	1,482
未払金	5,768	2,756
未払法人税等	909	143
未払消費税等	27	102
賞与引当金	436	440
預り金	275	205
その他	227	227
流動負債合計	12,191	9,421
固定負債		
長期借入金	1,077	711
繰延税金負債	1	—
退職給付引当金	1,158	716
役員退職慰労引当金	727	253
長期未払金	—	202
固定負債合計	2,965	1,882
負債合計	15,156	11,304
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,566	6,566
資本剰余金	7,302	7,302
利益剰余金	43,028	43,232
自己株式	△3,203	△3,206
株主資本合計	53,693	53,894
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	708	646
その他の包括利益累計額合計	708	646
純資産合計	54,402	54,541
負債純資産合計	69,559	65,846

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	25,465	26,595
売上原価	15,415	16,242
売上総利益	10,049	10,353
販売費及び一般管理費	8,446	8,913
営業利益	1,603	1,439
営業外収益		
受取利息	4	3
受取配当金	62	70
受取賃貸料	37	43
その他	41	28
営業外収益合計	146	146
営業外費用		
支払利息	6	9
賃貸費用	14	11
その他	0	3
営業外費用合計	22	24
経常利益	1,727	1,562
特別利益		
固定資産処分益	0	0
投資有価証券売却益	—	360
新株予約権戻入益	61	—
その他	—	158
特別利益合計	61	519
特別損失		
固定資産処分損	1	14
投資有価証券評価損	170	0
役員退職慰労金	—	859
その他	—	170
特別損失合計	171	1,044
税金等調整前四半期純利益	1,616	1,037
法人税、住民税及び事業税	580	144
法人税等調整額	68	209
法人税等合計	648	353
少数株主損益調整前四半期純利益	968	684
四半期純利益	968	684

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	968	684
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△23	△62
その他の包括利益合計	△23	△62
四半期包括利益	944	621
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	944	621
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,616	1,037
減価償却費	956	1,003
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	0	△0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△23	4
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△36	△442
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△12	22
受取利息及び受取配当金	△67	△74
支払利息	6	9
固定資産処分損益 (△は益)	0	14
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△360
役員退職慰労金	—	859
売上債権の増減額 (△は増加)	△875	531
たな卸資産の増減額 (△は増加)	427	337
仕入債務の増減額 (△は減少)	427	251
未払金の増減額 (△は減少)	△52	△208
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△39	74
預り金の増減額 (△は減少)	0	△70
その他	△68	△74
小計	2,262	2,914
利息及び配当金の受取額	67	74
利息の支払額	△6	△8
役員退職慰労金の支払額	—	△1,356
法人税等の支払額	△782	△859
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,541	765
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△3,000	△500
定期預金の払戻による収入	2,000	2,400
有形固定資産の取得による支出	△340	△3,647
有形固定資産の売却による収入	0	0
無形固定資産の取得による支出	△70	△39
投資有価証券の取得による支出	△6	△640
投資有価証券の売却による収入	2	721
その他	△85	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,500	△1,705

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	730	750
長期借入れによる収入	1,500	—
長期借入金の返済による支出	△335	△366
自己株式の売却による収入	0	—
自己株式の取得による支出	△2	△2
配当金の支払額	△480	△480
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,411	△98
現金及び現金同等物に係る換算差額		
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,452	△1,038
現金及び現金同等物の期首残高	11,233	12,969
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,685	11,930

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

該当事項はありません。

3. 補足情報

(1) 販売の状況

(単位：百万円)

製品分類	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年 4月 1日 至平成24年 9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成25年 4月 1日 至平成25年 9月30日)		増減額	(参考) 前連結会計年度 (自平成24年 4月 1日 至平成25年 3月31日)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
昆布製品	7,971	31.3%	8,060	30.3%	88	16,713	31.0%
そう菜製品	6,368	25.0%	7,085	26.6%	716	13,299	24.7%
豆製品	5,886	23.1%	5,681	21.4%	△204	12,894	23.9%
デザート製品	1,896	7.5%	2,025	7.6%	129	3,075	5.7%
ヨーグルト製品	1,409	5.5%	1,812	6.8%	402	2,874	5.4%
その他製品	1,931	7.6%	1,929	7.3%	△1	5,017	9.3%
合計	25,465	100.0%	26,595	100.0%	1,130	53,874	100.0%

(注) 増減額は、当第2四半期連結累計期間と前第2四半期連結累計期間との比較で表示しております。
 当第1四半期連結累計期間より製品分類を変更し、従来の「デザート製品」から「ヨーグルト製品」を独立させて表示しております。
 前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度の実績は、変更後の区分に替えて表示しております。